

FT-857 外部 S メーターの製作

JA1WOB 齋藤 章

コロナウイルスの為、外出自粛の中、移動運用も出来ずにインターネット検索をしていると、FT-857 の外付け S メーターのネット販売がありました。

FT-857 内臓の LCD 表示のメーターは小さくで、見づらいので外付けアナログのメーターには興味がありました。

¥2000～¥4000 でネット販売していました。更に検索してみると、メーター単体を購入して自作する、サイトがあったので、覗いてみると 100 μ A の電流計に S メーター他の目盛板を取付けて自作していました。



我が屋のジャンク箱を覗いてみると、昭和 14 年製で 200 μ A の丸型メーターがありました。

この電流計の目盛板には、錨 (錨) のマークが付いている、海軍仕様で横川電機と書かれていました。

また、開局当時に受信機の S メーターとして使用したのか、手書きで S の文字と 1~9 と 10 db、20 db の文字がありました。

また、フルスケール 2 のスケールになっていたの、逆ぶれメーターにしてありました。

昔の FTDX-401 の真似をして S メーターを取り付けようとしたのかもしれませんが。

電流計の前面パネルを外すと、目盛板を取り外す事が出来ます。

S メーターに貼り付ける目盛板はネットにあったサンプルをコピーして、QSL カード用紙に印刷して、丸型メーターの取付けると、マルチメーターが完成しました。

S メーターの MAX 値調整用に、100K Ω の VR をメーターの端子に直接取り付けて調整出来る様にしました。

FT-857 の取説に、S メーター、電圧、センターメータ、SWR、ALC、POW などの設定法がありましたので、それを参考に設定しました。

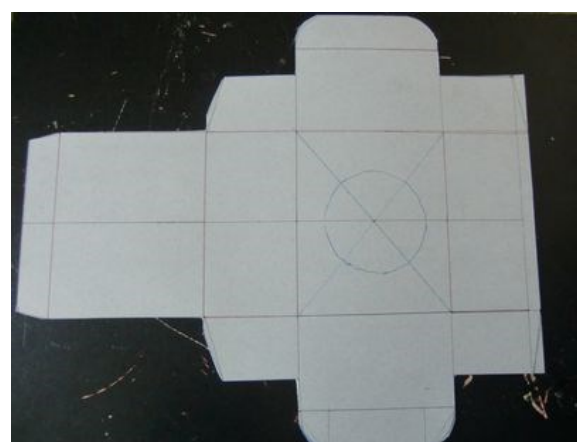


次に S メーターの収納 BOX を製作するため、¥100 均などにある、プラケースを加工して作ろうと考えましたが、¥100 均の営業自粛で、買い物が出来ない為、家にあったカラー工作用紙を使って収納 BOX を作成する事にしました。

元の電流計が昭和 14 年の海軍仕様の錨マークがあるで、ゼロ戦の計器盤の薄緑色で作る事にしました。

ネットから紙で作る箱の型紙を入手して、電流計の寸法にアレンジして、組み立てると、ペーパーの箱が出来上がりました。その箱に、S メーターを収めて完成しました。

FT-857 本体と比べると、S メーターが大きな感じがしますが、やはり S メーターはアナログの丸いメーターの方が威厳ありますね。



この S メーターを付けて、CW で東京コンテストに参加しました。ぴこぴこ、動く S メーターには癒されました。

終わり